

2 南薩地域の茶業経営の安定とブランド化による稼ぐ力の向上

成果の要約

- 1 生産履歴管理システムと営農支援アプリの連携システム導入支援により、新たに2工場が導入し、経営効率化に繋がることへの理解が進んだ。
- 2 10a 当たり粗収益は、一・二番茶の粗収益は前年並みであったが、三番茶以降ドリンク原料等の需要が増加し、前年比 107%となった。
- 3 有機栽培生産技術実証に取り組み、各市の座談会や研修会で説明し、技術の波及を図った。
- 4 茶品評会では全国・県茶品評会ともに南九州市が産地賞と農林水産大臣賞を獲得した。南九州市は全国茶品評会の産地賞5連覇を達成し、銘柄確立と技術の高位平準化が図られた。

1 対象

- (1) 南薩地区茶業振興会 143 工場
- (2) 各市茶業振興会 653 戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 担い手・労働力不足などに対応するため、スマート農業技術の導入や GAP 実践による経営体質の強化が必要である。
- (2) 茶価の低迷や資材の高騰などに対応するため、新技術導入や輸出茶など新たな生産体系を確立する必要がある。
- (3) 消費拡大・ブランド力向上のため、出品茶への取組による銘柄確立、仕上げ茶の品質向上、多様な茶種への取組を強化する必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) ICT 技術導入と GAP の推進
生産履歴管理システム「茶れきくん」と営農支援アプリ「アグリノート」の連携システム導入に向け、連携システムを活用した経営改善事例を周知した結果、新たに2工場が導入した。



写真1 アグリノート導入支援

導入した工場では、今まで負担が大きかった生産履歴や、GAP に関する事務作業の負担が軽減された。また、ほ場・品種毎の粗収益を算出できる機能を活用し、重点的に管理すべきほ場の設定や今後の改植計画指導を行い、経営の効率化に繋がることの理解が深まった(写真1)。

GAP の推進は、手順書の作成支援や、内部監査による是正等及び改善等を指導した。

- (2) 生産性の向上

良質な生葉確保のため、土づくりや整枝、防除等の茶園管理を指導し、茶時期は適期摘採、生葉取扱や品質を落とさない荒茶製造を指導した。

一・二番茶は、前年並みの粗収益であったが、三番茶、秋冬番茶の需要が高かったこともあり、管内の10a当たりの粗収益は、約31万円で前年比107%であった。

- (3) 輸出茶生産体制の強化

ア 生産体制強化

輸出茶研究会員65茶工場を対象に、輸出向け茶園管理、輸出茶相手国の残留農薬基準値一覧、輸出茶の動向などを掲載した「輸出茶研究会だより」を作成、配布し、輸出茶への理解促進を図った。

研究会は発足から約10年が経過し、現在是有機栽培の増加や輸出相手国、茶種が多岐にわたるようになったため、研究会を解散し、次年度から地区茶業振興会全体を対象に輸出茶生産に向けた取組を支援していくこととなった。

- イ てん茶生産量の拡大

令和5年度に新設あるいは増設したてん茶工場を中心に巡回指導し、生産・販売状

況の把握，生産課題等の収集に努めた。

てん茶の需要が高く価格も好調なことから，数件の工場が，てん茶工場の新設・増設を検討している。

(4) 有機栽培生産技術実証

有機栽培における技術実証は土壌反転による収量・品質向上，耕種的防除による収量・品質向上等を実証した（写真 2）。

ア 土壌反転による収量・品質検討

土壌中の無機態窒素を調査した結果，実証区が対照区に比べ，やや高く推移した。一番茶から三番茶までの生葉収量の合計は，両区ほぼ同等であった。



写真 2 生葉調査

イ 耕種的防除による病虫害被害軽減検討

最終摘採後から秋整枝までの期間，遅れ芽を数回除去し，芽揃いを良くすることで，病虫害被害低減ができないか検討した。殺菌剤を使用しなかったが，炭疽病の発生を低減することができた。害虫については，発生が少なく効果が判然としなかった。

(5) 消費拡大・ブランド力向上

ア 産地賞受賞によるブランド化

茶園管理や摘採製造指導（写真 3）などに取り組み，令和 6 年は全国茶品評会，県茶品評会に管内から 33 点出品した。全国茶品評会では，南九州市が普通煎茶 10kg の部で産地賞を 5 年連続獲得し，農林水産大臣賞も受賞した。

県茶品評会では，南九州市が産地賞，農林水産大臣賞を獲得し，枕崎市，南さつま市が出品した茶も全て入賞した。



写真 3 茶品評会製造指導

イ 仕上げ茶の品質向上と消費拡大支援

知覧茶の品質向上を図るため，流通部会での品質改善指導を行った（写真 4）。青年組織に対して仕上げ茶製造と単一品種による消費者ニーズの把握に取り組んだ。また，消費拡大に向けて，お茶入れ教室や知覧茶アンバサダー講座での支援を実施した。



写真 4 流通部会での仕上げ茶審査

4 今後の課題

- (1) スマート農業技術を活用した生産工程情報管理などの実証・普及と国際水準 GAP 認証の推進
- (2) 有機栽培やてん茶の安定した品質・収量確保技術の検討
- (3) 良質茶生産技術の習得と仕上げ茶の品質向上によるブランド確立

5 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇上園，中，當，矢野，（元山）